

famAA

fukai / aihara / miura
AROUND ARTS

famAA

Yamagata Creative City Center Q1 1-H,

1-5-19 Honcho, Yamagata-city, Yamagata-pref. 990-0043 JAPAN

m. hello@famaa.art w. <https://famaa.art/> Instagram: <https://instagram.com/fam.aa.gallery/>Facebook: <https://facebook.com/fam.aa.gallery/> Twitter: https://twitter.com/fam_aa_gallery/

この度、famAA(ファミ)のグランドオープンの展覧会として、吉田勝信個展「印刷機になる／mimic a printing」を開催いたします。本展は、2022年9月に行われたfamAAプレオープンでのグループショー「famAAはコンテンポラリーアートとその周辺をプレゼンテーションするギャラリーです」に出展された吉田の作品《印刷実験》シリーズの最新作となります。《印刷実験》シリーズは、吉田の生業であるグラフィックデザインの基層をなす「複製技術としての印刷」という概念を吉田の身体性でもって脱構築する意欲作です。

吉田勝信は、採集者／デザイナー／プリンターとして、フィールドワークやプロトタイピングを積極的に取り入れた作風で知られています。近年は、海や山から採集した素材で色をつくり、現代社会に実装することを目的とした開発研究「Foraged Colors」や、自身のアトリエに構えた印刷工房で進められる「超・特殊印刷」など、そのどれもが「印刷」という概念と格闘しながら展開される活動といえるでしょう。また、吉田は採集者としての顔も持ち合わせており、自身が手掛けるさまざまな仕事や作品にその個性が色濃く反映されています。

famAAこけら落としの展覧会として、3月から11月まで3期にわけて吉田のさまざまな作品を展示いたします。

この機会に是非ご高覧ください。

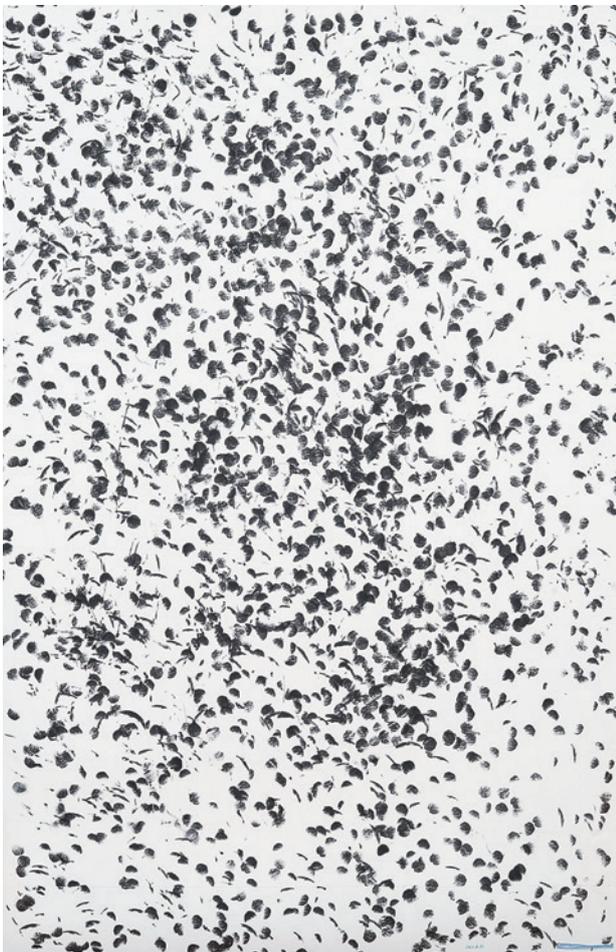
●吉田勝信展「印刷機になる／mimic a printing」

会期: 2023/3/4[土]～5/14[日] 開廊時間: 12:00～19:00 定休日: 不定休

オープニングレセプション＝グランドオープンパーティ: 3/19[日] 17:00～予定

※第2期: 6/3[土]～8/13[日]、第3期: 9/2[土]～11/12[日] それぞれ予定

※会期前2/20[月]より、閉廊のギャラリーを窓越しで鑑賞する「window show」プロジェクトにて吉田の作品をご覧いただけます



参考作品: 吉田勝信《印刷実験 001》2022年、作家蔵 Courtesy of famAA



参考作品: 吉田勝信《印刷実験 002》2022年、作家蔵 Courtesy of famAA

●作家によるステートメント

印刷機になる／mimic a printing

私が見つ問いの一つに「なぜヒトはモノを作るのか」というものがあります。山で食べ物や素材を採集していると、森全体が乾いたり濡れたりを繰り返していること、陽が当たる斜面とそうでない斜面の植生の差異、樹種によって生えてくるキノコが異なることなどがわかってきます。私の山の先達は「薬草を採るなら夏の土用の前にしろ」と教えてくれました。それは、彼がフィールドにしている山では、その時期は土中の水分量が一年で一番少なくなるとときで、当然、植物の体内の水分量も少なくなります。つまり、薬効となるものの濃度が上がり、効き目も香りも良質な薬草が採れるのです。このように、薬草を採るだけでも生態学などの自然科学的な視点を持ち得るかどうかが制作物のクオリティに影響するのです。おそらく、モノを作るということは、作ることを媒介にして目の前に広がる世界の構造を解明していくことだと思えます。これは、人間が工芸や科学、宗教などを発見する前の時代、すなわち芸術が生きる術だった頃の古い論法であったと考えています。

おもしろいことに、ヒトは作ることに慣れてくると「たくさん」作り始めます。私が今、最も興味のあることは、この「たくさん作ってしまうこと」です。私はキノコの採集を始めて7年ほどが経ちました。初めの頃は山へ入っても見つけることができず、キノコの先達からおこぼれを貰うような有様でしたが、だんだんと山の中にシロ（キノコがたくさん生える場所）が増え、今では私の家だけでは食べきれなくなり、友人たちに配ったり、さらには販売までしています。これは、私の山だけの特例というわけではなく、キノコにまつわる物事はキノコの構造に詳しくなると、「あ、よさそうな山だな」と思って初めて入った山でも応用が効いて、たくさん採れるようになります。つまり、採集を起点にしたモノづくりでは、その構造の中に増殖性が内在化しているのです。

この構造は、印刷と非常によく似ています。印刷は、製版と量産に分けることができます、表現と複製と言い換えても良いかもしれません。今日の印刷産業では表現したものを複製し量産することが一般的ですが、私の印刷工場では、複製する過程で表現が立ち上がることが往々にしてあります。それは、表現と複製を切り分けるものではなく、むしろ複製性の中に表現性が織り込まれていることを示しています。

もう一つの観点としては、「たくさん」とは一人では抱えきれない巨大さがあります。建築の様に一つが大きいわけではなく、小さいものが集まることで複数性の巨大さが発揮されます。このとき、私だけでは抱えきれず、誰かと一緒に作るようになります。たかだか1,000部の冊子を印刷・製本するのですら、のべ15人ほどが関わらないと作れません。つまり、その巨大さゆえに他者が座る空席が発生し、モノを作ることが外の世界へひらかれていくのです。

そして、この「たくさん作るという構造」が外へひらかれ、他者を呼び込む瞬間に人間以外のモノも座るようになります。私のモノづくりの先達が「テマとヒマ」の話をしてくれました。彼は、山へ入りカスシボリの枝を採ってきて、それを束ねただけの箒を作っていました。その地域での箒作りの名人で、近隣の人にわずか五百円で販売しているのです。彼は、材料となる枝を採ってきたあと、小屋の周りのコンクリート床に枝を敷き、仕事を途中で早々にほったらかしにして、家の中で『暴れん坊将軍』を見始めました。私は、驚いて思わず「何をしていますか？」と尋ねました。彼は「ヒマをかけているんだ。そのあと箒をキレイに束ねるのはオレのテマだ」と言いました。つまり、彼が言うには、自分で葉っぱをむしらずに天日に当て、葉が勝手に落ちるのをテレビを観ながら待っていて、その際に太陽を使うことを「ヒマ」と呼び、自らが枝を束ね、一般的に私たちが「作る」と言っていることを「テマ」と呼んでいたのです。このように、たくさん作る＝「複製技術」は現代の産業構造の様に閉じたものではなく、本来的にはヒトやヒトならざる他者を呼び込む空席が設けられています。

今回の展示に際し行なった一連の実験は、私が採集的に理解した世界の構造を複製技術を持って増幅させ、他者へひらき、モノが立ち上がる仕組みに仕立てる試みです。

吉田勝信

●吉田勝信（よしだ・かつのぶ）

採集者／デザイナー／プリンター。山形県を拠点にフィールドワークやプロトタイピングを取り入れた制作を行なう。近年の事例に海や山から採集した素材で色をつくり、現代社会に実装することを目的とした開発研究「Foraged Colors」や「超・特殊印刷」がある。趣味はキノコの採集および同定。2023年は「London Design Biennale 2023」日本館への出展、「北奥のFUNKASAI」への出展がそれぞれ予定されている。

●famAA(ファマ)について

famAA (fukai/aihara/miura AROUND ARTS / ファマ) は、
アートとその周辺 (Around Arts) を軸にするコマーシャルギャラリーとして、
2022年9月に山形で活動を開始しました。

お問い合わせ先:

famAA 〒990-0043 山形県山形市本町1-5-19

やまがたクリエイティブシティセンターQ1 1階 1-H

営業時間: 12:00~19:00 定休日: 不定休

Email: hello@famaa.art

web: <https://famaa.art/>

Instagram: <https://instagram.com/fam.aa.gallery/>

Facebook: <https://facebook.com/fam.aa.gallery/>

Twitter: https://twitter.com/fam_aa_gallery/